

# 漁況海況予報事業（情報交換推進事業）

鹿熊 信一郎、上原 和美\*<sup>1</sup>、金城 詔子\*<sup>2</sup>、上原 百合子\*<sup>3</sup>

## 1. 目的および内容

沿岸・沖合漁業に関する漁海況調査、研究および資源調査の結果に基づいて、海況の変動や漁場の形成される位置・魚群の量などの予報分を作成する。また、漁況・海況情報を収集整理し漁業者に通報することにより、漁業資源の合理的利用や操業の効率化を図り、漁業経営の安定に資する。さらに、海況や資源の状態、回遊状況などあらゆる情報から漁況あるいは資源の変動を予測する手法を開発改良し、予報の精度を高める。

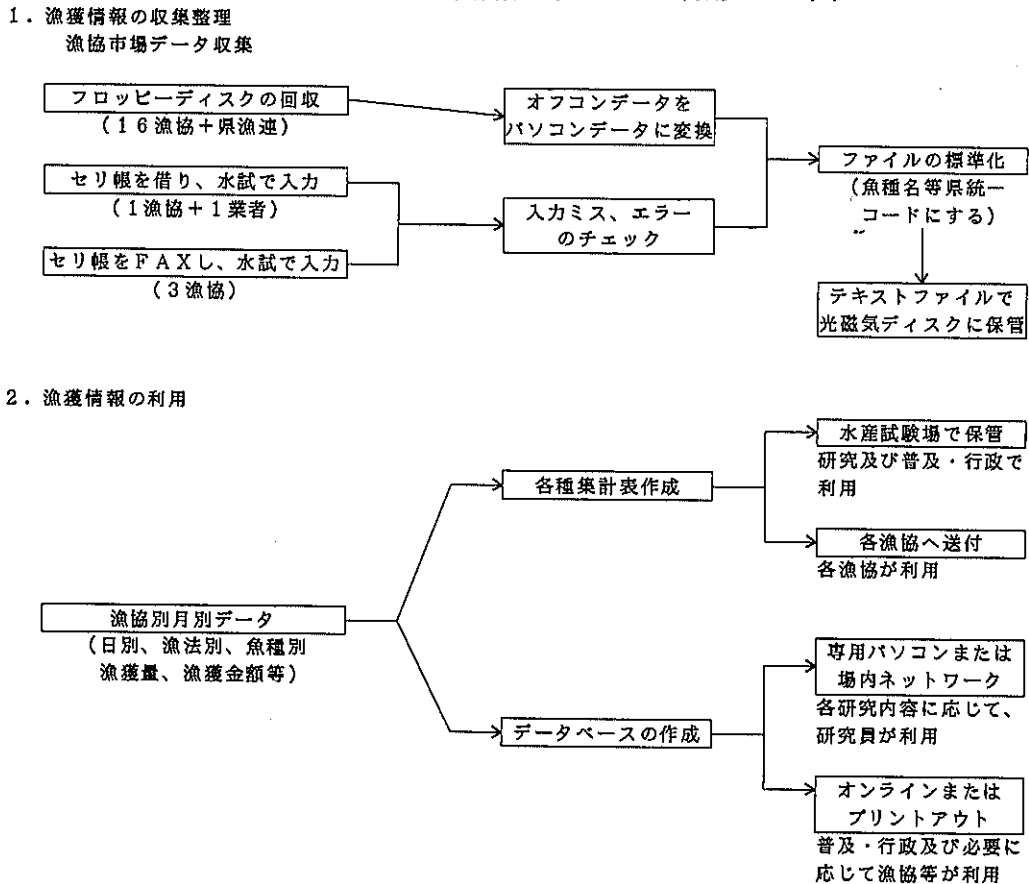
本事業を実施するにあたり、毎月の漁獲記録が保存されたフロッピーディスクや、セリ帳を提供していただいた関係漁協には厚くお礼申し上げます。

## 2. 材料及び方法

### (1) 市場情報の収集整理

販売業務（セリ帳集計）にオフィスコンピューター（オフコン）を導入している漁業協同組合を対象に、毎日の販売データをフロッピーディスクに保存してもらい、それを漁獲統計の資料としている。この作業は1989年1月以降継続して実施している。また、オフコンを持たない漁協については、水産試験場においてパソコンにより集計する。この作業のおよその流れを図1に示した。

図1 市場情報収集・整理・利用フロー図



\*<sup>1</sup>非常勤職員 \*<sup>2</sup>非常勤職員 \*<sup>3</sup>非常勤職員

(2) 漁海況情報の作成

各種海況情報および漁況情報を1ヶ月に1回整理した「漁海況情報」を作成し水産関係者に広報した。内容は以下のとおりである。

海況：琉球新報天気欄から風向風速頻度、定期船による流況観測結果、漁業情報サービスセンターの表層水温図、長崎海洋気象台の表層水温偏差

漁況：沖縄島南4漁協および伊良部漁協のパヤオ（浮魚礁）漁業による魚種別漁獲量、その年次推移、沖縄本島地域6漁協の定置網魚種別漁獲量、ソデイカ漁業の月別漁獲量および外套長推移

このうち、表面水温偏差のグラフを図2に示した。

(3) 海流速報の作成

飛龍3およびだいたうに設置した流向流速計の観測果を図化し、毎月1回関係漁協等へ送付した。

(4) その他の情報

パヤオ漁業や定置網漁業の漁獲量の推移、魚種組成等について整理し、「パヤオ情報」、「定置網情報」として年1～2回、水産関係者に広報した。また、本部漁協のカツオ竿釣り漁業について銘柄別漁獲量等を送付してもらい、これを整理した。

3. 結果及び考察

(1) パヤオ漁業

1994年のパヤオ漁は不漁であった。沖縄島南のパヤオに出漁する糸満、港川、知念、沖縄市の4漁協

沖縄島南パヤオ漁獲量 (t)

	1993年	1994年
キハダ	254	112
シビ	251	196
シイラ	111	59

では、主な対象種であるキハダ (10kg以上) が1993年には254tの漁獲量だったのに対し、1994年は半分以下の112tとなった。シビ (10kg以下のキハダ)、シイラの漁獲量も減少した。

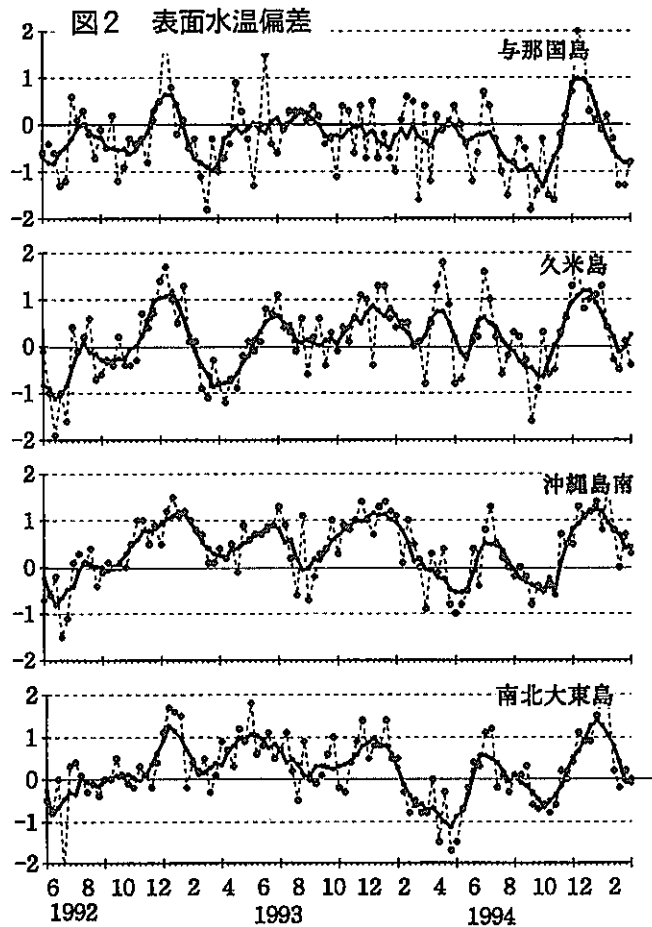


図3にキハダ、シビ、シイラの月別漁獲量の推移を示した。

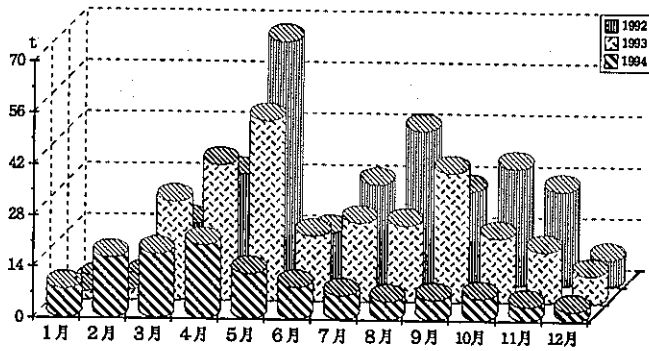
(2) 定置網

1994年の読谷、与那原、勝連、与那城、石川、金武漁協の定置網の漁獲物では、グルクマ、ガツン、ガラ等の漁獲量が多かった (図5)。上位3種の月別漁獲量の推移を図4に示した。

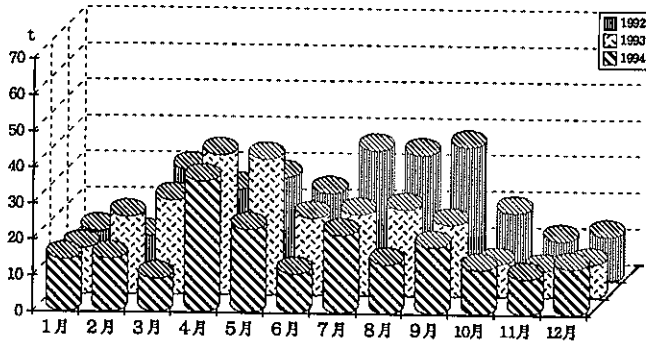
(3) カツオ竿釣り

本部漁協のカツオ竿釣りは、近年低調で推移しているが、今期は漁獲量、C P U E 共に比較的高い水準であった (図6)。

図3 パヤオ漁業月別生産量の推移  
月別キハダ生産量の推移



月別シビ生産量の推移



月別シイラ生産量の推移

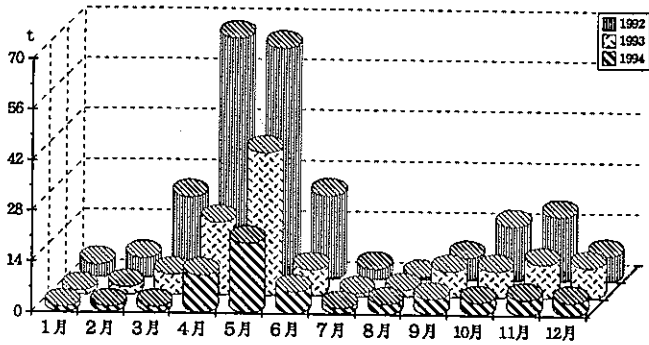


図4 定置網月別生産量の推移 (1994)  
月別生産量

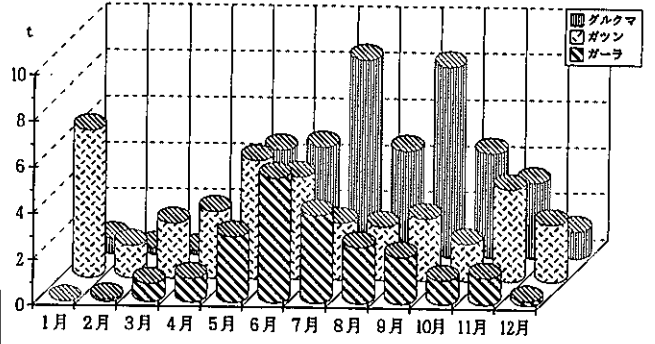


図5 定置網魚種別構成

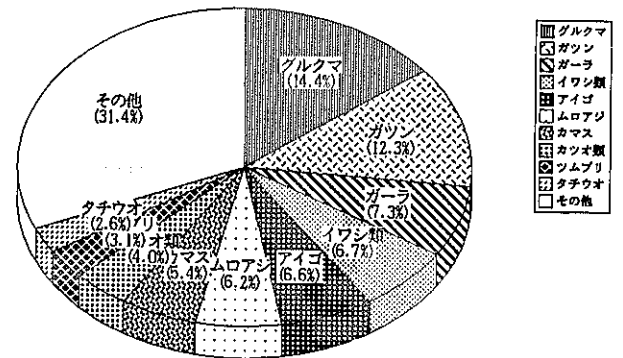


図6 本部カツオ漁獲量・CPUEの推移

